

自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース/田村
隆宏

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

幼児心理学・発達心理学を専門としていることから、授業内容は主として子ども理解に関わる、幼児の心理発達過程に関わる基礎的な知識を得て、それを踏まえた保育・教育の望ましいあり方について考察するものが中心である。教員としての資質能力として、この子どもに対する保育・教育の望ましいあり方を常に考えるという思索力を身につけることは高度職業人として重要である。授業方法は受講生自らが発表をする形態をとることで、教授力やそれに関わるコミュニケーション力を身につけ、直接的な保育・教育実践力の向上を図る。さらに発表で照会された内容がどのように保育・教育現場で生かせるか、その内容を踏まえて望ましい保育・教育のあり方がどのように考えられるかについて受講生が活発に討論を行い、直接的に思索力を高めることを目指す。成績評価については、教員の評価のみならず、受講生自らが発表者の教員として必要な資質に関わる要素を評価し、教員として必要な資質に対して常に意識を高められるように工夫する。これらの取組みを通して、受講生の教員としての資質能力を総合的に向上させる。

2. 点検・評価

幼児心理学・発達心理学を専門としていることから、①授業内容は主として子ども理解に関わる、幼児の心理発達過程に関わる基礎的な知識を得て、それを踏まえた保育・教育の望ましいあり方について考察し、明確に認識できるものを中心とした。この内容から、教員としての資質能力として、この子どもに対する保育・教育の望ましいあり方を常に考えるという思索力が身につけ、高度職業人として相応しい資質を養うことができた。②授業方法は受講生自らが発表をする形態をとった。この方法により、教授力やそれに関わるコミュニケーション力を身につけ、直接的な保育・教育実践力の向上に繋がった。さらに発表で紹介された内容がどのように保育・教育現場で生かせるか、その内容を踏まえて望ましい保育・教育のあり方がどのように考えられるかについて受講生が活発に討論を行う機会を設け、直接的に思索力を高める活動を盛り込んだ。③成績評価については、教員の評価のみならず、受講生自らが発表者の教員として必要な資質に関わる要素を評価させ、教員として必要な資質に対して常に意識を高めつつ授業に関わることができるように工夫した。評価結果や受講生の授業評価の結果から、これらの取組みを通して、受講生の教員としての資質能力が総合的に向上したことが裏づけられた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

学部生、大学院生の就職活動については、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高める。また各地から送られてくる教員や保育士の募集情報を学生に積極的に提供し、学生の就職活動をサポートする。

2. 点検・評価

学部生、大学院生の就職活動に対して、コースが収集している採用試験に関する情報、及び過去の修了生、卒業生からの採用試験に関わる情報を学生に積極的に提供し、就職に対する意識や意欲を高めた。また各地から送られてくる教員や保育士の募集情報を学生に積極的に提供し、学生の就職活動をサポートした。このような支援活動の結果、学部生では、5名のうち4名が保育所もしくは幼稚園教員として正式採用、及び臨時採用され、4月以後保育現場で活躍している。大学院生については、専門学校の教員や教育現場の更正施設の教員などとして正式採用されたり、幼稚園・小学校の教員として臨時採用されたり、と大いに教育現場で活躍している。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

昨年度から引き続き、調査を進めている、大学生を対象とした精神的回復力(レジリエンス)に及ぼす幼少期の親子関係、及び依存心の影響に関わる成果を関連学会で発表し、学術誌に論文投稿をする。また、附属幼稚園との共同研究のテーマである「幼児期における科学的思考の発達」にかかわる成果を紀要にまとめる。さらに、長期的に取組んできた幼児の語彙学習過程の発達に関する成果を学会誌に投稿する。

2. 点検・評価

大学生を対象とした精神的回復力(レジリエンス)に及ぼす幼少期の親子関係、及び依存心の影響に関わる成果を日本教育心理学会第55回総会で“青年期の精神的回復力に及ぼす幼少期の親子関係の影響；親との信頼性の影響”と題して発表し、日本心理学会第77回大会で“青年期の精神的回復力に及ぼす依存性の影響”と題して発表した。現在、これらのデータを論文にまとめ投稿し、審査を受けている段階にある。また、附属幼稚園との共同研究のテーマである「幼児期における科学的思考の発達」にかかわる成果を“遊誘財が引き出す学びは教材による学びといかに異なるか？”と題した論文として附属幼稚園研究紀要に掲載された。さらに、長期的に取組んできた幼児の語彙学習過程の発達に関する成果を論文にまとめている最終段階にあり、間もなく学会誌に投稿できる段階にある。これらに加えて、ここ数年の共同研究の成果である“養育者の目的志向性が育児不安、育児充実感、及び主観的幸福感に与える影響”と題した共著論文が応用教育心理学研究誌に掲載された。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

昨年に引き続き、基礎臨床系教育部代表の評議委員として特に教育・研究面における大学運営に関わる。また、学部入試委員会委員として学部入学試験の業務に直接的に関わる。さらに東京学芸大学を主幹とした6大学連携人材GPに関わる社団法人の運営委員として特にカリキュラム検討を担当し、教育支援人材育成事業に積極的に携わる。これらに加えて、岡山大学、上越教育大学と本学が連携して運営する文科省からの委託事業に関わるカリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会委員として、特にカリキュラムマップの作成に関わる。

2. 点検・評価

今年度も基礎臨床系教育部代表の評議委員として特に教育・研究面における大学運営に関わった。また、学部入試委員会委員として学部入学試験の業務に直接的に関わった。さらに東京学芸大学を主幹とした6大学連携人材GPに関わる社団法人の運営委員として特にカリキュラム検討を担当し、教育支援人材育成事業に積極的に携わった。これらに加えて、岡山大学、上越教育大学と本学が連携して運営する文科省からの委託事業に関わるカリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会委員として、特にカリキュラムマップ・ガイドラインの作成に貢献した。これらに加えて、長期履修学生私怨センター委員として長期履修生の支援にも関わった。さらに学長選考委員会委員として次年度からの学長選考に関わり滞りなく学長選考を完遂できた。また学内の教員採用人事や昇任人事に関わる選考委員として3つのコースの選考委員会に関わり、教員採用や昇任人事にも貢献できた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園との連携については、月に2～3回開催される合同研究会に参加し、保育実践に関わる共同研究に加わり、その成果を附属幼稚園研究紀要にまとめる。

社会との連携については、教育支援アドバイザーとして複数のテーマを掲げ、講演等の依頼に対して積極的に赴くことに加え、徳島市教育委員会・社会教育委員として地域の社会教育に貢献をする。また、徳島県子育て総合支援センターの「子育て応援の匠」事業において子育て応援の匠として登録し、県内の子育て支援活動に貢献する。さらに、鳴門市子育て支援事業における保育カウンセラーとして、保育者や保護者の相談に応じる。

2. 点検・評価

附属幼稚園との連携については、月に2～3回開催される合同研究会に参加し、保育実践に関わる共同研究に加わり、その成果を附属幼稚園研究紀要にまとめた。それに加えて、附属幼稚園の学校評価委員会委員、及び運営評議会委員として附属幼稚園の第三者評価や運営面においても貢献した。

社会との連携については、教育支援アドバイザーとして複数のテーマを掲げ、講演等の依頼に応じた。今年度は、5月に三好市、7月に松茂町、10月に阿南市で講演を行った。また、徳島市教育委員会・社会教育委員として地域の社会教育の進展に貢献した。また、徳島県子育て総合支援センターの「子育て応援の匠」事業において子育て応援の匠として登録し、県内の子育て支援活動に貢献した。さらに、鳴門市教育委員会・子育て支援事業における保育カウンセラーとして、6月、7月、2月に保護者の育児相談に応じた。これらに加え、本学が主催している地域人材育成事業に関わる子どもパートナー講習の講師として講義を受け持った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

昨年度に引き続き、本学の学長選考委員会委員として学長選考に関わり、滞りなく選考過程を完遂し、無事に田中雄三次期学長を選任できた。